

香取遺産

Vol.126

圓生涯学習課

☎(50)1224

近在きつての古刹
妙光山蓮華院観福寺



▲観福寺本堂

観福寺は、佐原の牧野にある新義真言宗豊山派の寺院です。新義真言宗は、真言宗中興の祖「興教大師」(1095～1143)の教義を基に新しく打ち立てられた宗派で、豊山派の総本山は奈良県の長谷寺です。

観福寺は元々、牧野字小山にあり、辻坊と称されていたようです。弘法大師空海が、弘仁年間(810～824)の東国巡錫の際に、この辻坊に泊まったことから、真言宗になったとされています。その後、寛平2年(890)に僧尊海が堂宇を建て、寺号を改めたと言われています。

やがて、観福寺は千葉氏の祈願所となり、以降、多くの武将の帰依を受けました。江戸時代には、幕府から子の年、午の年ごとに、年始の拝謁において独礼寺の寺格を許され、守札を献上していました。

境内には、本堂をはじめ元禄年間の建立とされる観音堂、大

師堂、講堂、不動堂、毘沙門堂、薬師堂、陀羅尼堂の堂宇と山門、鐘楼、庫裏があり、その伽藍は荘厳ささえ感じさせます。

観音堂には、寺伝に平将門の守護仏であったとされる木造聖観世音菩薩立像(市指定文化財)が安置されています。

木造聖観世音菩薩立像の他にも、木造愛染明王坐像、観福寺文書、両界曼荼羅、常光明会曼荼羅、釈迦三尊十六善神像、弥勒曼荼羅、伊能忠敬墓などが市の文化財に指定されており、その制作・建立の時代は古代から近世に及びます。

また、国の重要有形文化財である銅造の懸け仏4体は、もと香取神宮の本地仏で、明治時代の廃仏毀釈の混乱を経て、観福寺に納められたものです。

観福寺は、古代・中世・近世の各時代を感じることができ、近在きつての古刹です。

折をみて訪ねてみてはいかがでしょうか。